

学位論文内容の要旨

学位申請者	犬塚 真由子 【ライフサイエンス専攻 平成25年度生】	要 旨
論文題目	本邦の遺伝性乳癌卵巣癌症候群女性に対する対側リスク低減乳房切除術の意思決定支援に関する検討	<p>遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）の乳癌患者は、対側乳癌の発症リスクが一般よりも高いと考えられ、対側リスク低減乳房切除術（CRRM）を受けることにより乳癌リスクの低減、生存率の向上が期待される。しかし、CRRM を受けない場合においても適切な介入で早期乳癌発見の可能性が高まる可能性があり、さらに受けた場合においても心理社会的影響も生じうる。そこで本研究では、本邦の HBOC 患者における CRRM への意向および CRRM の意思決定に関わる要因について調査を行い、意思決定支援の方策について検討した。</p> <p>研究の結果、CRRM を含むリスク低減切除術を受けることについての検討は、BRCA1/2 遺伝学的検査の受検に関わる一要因となっていた。また、片側乳癌の既往がある HBOC 患者における CRRM の施行状況を検討したところ、研究対象者の 13.3% が CRRM を施行されており、施行されていなかった患者に比較して、リスク低減卵巣卵管切除術（RRSO）を受けた割合が高く、可能な限りのがんリスク低減および生存率の改善を望んでいること、そして現在保険収載されていないリスク低減切除術を受けられる経済的環境にあることが推測された。さらに、CRRM 未施行の HBOC 患者を対象に、将来的に CRRM を受けることに対する意向を調査した結果、CRRM 未施行の患者においても CRRM を受けることを検討したいという意向があり、CRRM への意向をもつ患者は、10 歳未満の子どもをもつ母親が多い傾向にあり、CRRM は患者本人のためだけではなく、家族のためにも検討されている可能性が推測された。</p> <p>さらに、これらの考察をふまえ、患者の価値観を明確にすることを手助けする一つの方策として、CRRM に関する意思決定支援ツールを作成した。意思決定支援ツールには、CRRM に関する医学的情報のみならず、CRRM を選択した場合と選択しなかった場合のベネフィットとリスクについて患者自身が検討することを目的としたワークシートを取り入れた。このツールに対する印象を HBOC 診療に関わる医療者に確認した結果、7割以上で好意的な印象を得ることができた。更なる改訂は必要であるが、今回作成した意思決定支援ツールは、本邦における CRRM の意思決定支援に向けた第一歩となったと考えられた。</p>
審査委員	(主査) 教授 三宅 秀彦	
	教授 菅原 ますみ	
	教授 由良 敬	
	助教 佐々木 元子	
	准教授 沼部 博直（東京医科大学小児科）	